大障教ニュース

大阪府立障害児学校教職員組合
大阪市天王寺区東高津町７－１１
府教育会館７０４号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

老朽化したトイレや水回り等の施設改修による早急なコロナ対策を

教職員の更衣室・休養室の整備、栄養教諭の業務負担軽減、不妊治療休暇の拡充などを訴え

課別交渉（施設財務課・保健体育課・教職員企画課）

1月27日、大障教は施設財務課・保健体育課・教職員企画課との課別交渉を実施しました。交渉には10分会から15人が参加し、老朽化したトイレや水回り等の施設改修、休養室・更衣室の整備、栄養教諭の業務の負担軽減、不妊治療等の特別休暇制度の拡充、障害児学校における勤務の実態等、現場の実態を具体的に示して改善を求めました。

老朽化したトイレや水回り改修等による負担軽減（高槻・光陽）

高槻支援学校分会は、トイレが老朽化しているために腰痛を引き起こす要因となっていることと、コロナ禍で手洗いが重要視されているにもかかわらず、排水の悪い水回りがあるために感染症予防に支障が出ている実態を具体的に示し、その改善を求めました。

施設財務課は、「令和2年度内に『府立学校施設長寿命化整備方針に基づく事業実施計画』を策定し、令和3年度以降、実施計画に基づいて計画的な改修等順次進めていく」「緊急度の高い対策については、学校と協議の上、必要な対策を講じる」などと説明しました。大障教は、コロナ対策として、早急に予算措置を講じるよう強く求めました。

高槻支援学校分会
奥田さんと中村さん

教職員の更衣室・休養室の整備（光陽）

光陽支援学校分会は、十分な臥床スペースがなく、休養できない更衣室兼休養室の実態を示し、空調設備や休養室に必要な備品などの整備を求めました。

施設財務課は、「ヒアリング等を通じて学校からの要望を聞き、意向を踏まえて予算の範囲内で配当に努める」「更衣室等への空調設備の設置については、現在の財政事情を踏まえて困難」などと説明しました。大障教は、多くの学校が名ばかりの休養室で休養もままならない状態であることを指摘し、施設設備の拡充を求めました。

光陽支援学校
分会佐々木さん

民間委託化に伴う栄養教諭の業務過多に対する負担軽減措置（栄養教員部）

栄養教員部は、委託業者更新時の膨大な業務の実態と調理従事者等の資格要件を緩和したことによって、栄養教諭に多大な業務負担が生じている実態を訴え、負担軽減の方策を講じるよう求めました。

保健体育課は、「業者更新時の給食管理、衛生管理について、栄養教諭の負担が少しでも軽減されるよう検討を進める」「資格要件の緩和に関する問題ではなく、特定の事業者の問題と認識している」「入札の要件等については、今後も検討を続ける」などと説明しました。大障教は、入札が不調に終わったり、業務仕様書通りに業務を履行できなかったりするなど、請負契約自体が成立しておらず、民間委託化方針の破綻であると迫りました。

栄養教員部
金澤さん

光陽支援学校分会は、トイレの数が足りず、老朽化も著しい実態を訴え、抜本的な改修を求めました。

施設財務課は、「学校から提出される『施設整備計画』に基づき、その必要性・緊急性などを学校と協議のうえ、必要な対応をとる」「トイレの増設は、建物の大規模な改修等を行う必要があり困難」などの説明にとどまりました。

（裏面に続く）

大障教ホームページアドレス　http://fc06331220171211.web2.blks.jp/　Eメール アドレス ： fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のひとりごと

自分の住むところには
自分で表札を出すにかぎる。

自分の寝泊まりする場所に
他人がかけてくれる表札は
いつもろくなことはない。

石垣りんの詩「表札」の冒頭である。彼女は幼くして母を亡くし、弟、妹、父を養うために十五歳で銀行の事務員見習いとして働き始め、定年まで勤めた。

彼女は労働組合の執行役員を務めたこともあり、組合機関誌に自身の詩を掲載している。原爆のことをつづった「挨拶」も、「出勤簿の台の真上に貼る壁新聞に原爆投下の写真を出すので、それに沿える詩を書いて欲しい」との執行部要請に応えたものだったと彼女は語っている。

話を元に戻そう。私は、「表札」を繰り返し読んで自身の支えのひとつにしていた時期があった。今は詩集を引っ張り出して読むことはなくなったが、私の哲学の一部としてそれは根付いている。

三月は、卒業式がある。「卒業式冒頭の四十秒」を除いて、子どもの人生の節目に立ち会える喜びを何度も経験できることは、教師にのみ与えられた幸福だ。石垣りんは「表札」を次のように締めくくっている。

精神の在り場所も
ハタから表札をかけられてはならない
石垣りん
それでよい。

（久）

（前面からの続き）

不妊治療休暇の拡充と家族休暇制度の復活（女性部）

女性部大西さん

女性部は、今年度から制度化された不妊治療休暇について、日数が短く無給であるために、取得しづらいことを当事者の声を示して制度の改善を求めました。また、子育て中の教職員を支援するために家族休暇の復活を要求しました。

教職員企画課は、不妊治療休暇、家族休暇などの特別休暇について、「より府民理解を得られる制度にする観点から、民間状況も一定反映されている国制度を基本に見直しを行ない、実施している」などと説明し、「休暇の拡充や新設は困難」と述べました。

大障教は、安心して子どもを産み育てることができるよう制度の拡充を重ねて要望しました。

休憩時間など、障害児学校の取得実態に応じた在校等時間集計を（女性部）

女性部は、休憩時間が取得できなかったり、持ち帰り仕事を余儀なくされている障害児学校の実態を示し、在校等時間集計のシステム上の問題を指摘し、その改善を求めました。

教職員企画課は、「休憩時間については、学校職場の実態も踏まえ、適切に運用されていると認識している」と説明しました。

大障教は、「勤務時間7時間45分のうち、6時間半は児童生徒がおり、残りの1時間半で授業準備や会議、分掌業務、担任業務等をこなさなければならない」ことを指摘し、障害児学校の実態を把握したうえで時間外勤務の縮減等、実効性ある「働き方改革」を求めました。

全国障害児学級・学校学習交流集会に参加して（感想その1）

今年度の第20回全国障害児学級&学校学習交流集会はオンラインで開催され、大障教職場からも、多数参加しました。参加者から感想が寄せられていますので、大障教ニュースの紙面で紹介していきます。

学校は「楽しい場所」だと再確認してもらえるよう子どもたちと向き合っていきたい

今回、新型コロナウイルス感染症の影響で、岐阜で開催ができなくなったことは残念でしたが、オンラインで全国の障害児学校や学級の先生方と交流できたことはとてもよかったです。

普段、全国の先生方と交流する機会は少ない上に、今年は集まっての学習会の開催も難しいという現状があり、他の学校の様子を知る機会が失われてしまっていました。今回オンラインではありますが、こうした学習交流会を設けて頂き、日々の悩みや全国ではどのように実践、子どもと向き合っているのかを知ることができました。特に学校の中だけでは聞くことのできない保護者の声を聴くことができたのは、学校の果たすべき役割や我々教員の仕事についてもう一度改めて考えさせられるきっかけになったと思います。3月からの一斉休校中、学校に行けない子どもたちが、放課後等デイサービスなどの施設に半ば「密」になりながら通っていたこと。もしも受け入れてくれるところがなかったらと思うと、学校が子どもたちのために何ができたのかと考えざるを得ません。

一斉休校から一転して学校が再開してもまだなお、授業が1回もできていない地域もあります。子どもたちは依然として多い感染者数のもとで、日々不安を感じながら学校に登校しています。こうした現状を踏まえると、本当に学校の教員として子どもたちの心に寄り添うようなことができているのか、「やっぱり学校があってこそ」と思ってもらえるような取り組みができているのか、もう一度見つめ直したいです。そして学校が安心して、子どもたちが「楽しい場所」だったんだと再確認してもらえるよう、今後も子どもたちと向き合っていきたいです。

来年こそは現地で、全国の先生方と集まって、語り合えることを楽しみに、頑張っていきたいと思います。

（大手前分校　奥　正行）

よりよい寄り添い方を考える　問題意識を持っておくことが大切

1月10日の全体会にオンラインで参加しました。オンライン会議の参加が初めてでしたが、スムーズに接続もできました。コロナ禍の中、開催の形を変えてこのような機会をつくっていただきありがとうございました。

別府先生のお話は、実際の子どもたちとのやり取りから先生が気づかれたことを提示してくださるものでした。普段の子どもたちとの生活で、生徒たちをよく観察し、よりよい寄り添い方を考える問題意識を持っておくことが大切だと思いました。学校にいるだけだと目の前の生徒のことだけで頭がいっぱいになりますが、こうして他の子どもたちの話を聞くことでより俯瞰的に障がいを理解することができると思います。

リレートークでは、コロナ禍における医療現場やデイサービスの現場、保護者の方からの切実な思いを聞くことができました。休校になった3月から5月、私たちも不安でしたが、実際に生徒を受け入れてくださったデイサービスのスタッフの方、不安定になっていた生徒をずっと守ってくださった保護者の皆さんのご苦労が伝わりました。

今また緊急事態宣言が出ている現状ですが、幸い学校は生徒に開かれています。支援学校では特に「オンライン授業」も難しく、そして学校が生徒と保護者に安心を与えることができる場であることからも、なんとか今後も休校の事態を免れることを祈ります。「コロナ終結宣言」、いつ出るか分かりませんが、これまでどおりに生徒とたくさん触れ合って生活できる学校が戻ってくるまで、学校を守り続けましょう！

（佐野支援学校　林堂　晶代）